

令和4年度
(2022年度)

自己点検・評価報告書

令和 4年(2022年) 4月 1日から
令和 5年(2022年) 3月 31日まで

令和 5年(2023年)4月 30日

学校法人吉田学園
専門学校北海道自動車整備大学校

■令和4年度(2022年度) 学校自己点検・評価について

本校は、その教育の一層の充実を図り、本校の目的及び社会的使命を達成するため本校における教育活動等の状況について自ら点検及び評価を行っている。

1. 対象期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

2. 委員会開催

第1回 令和5年4月21日(金)

3. 実施方法

(1)実施組織: 自己点検・評価委員会

○委員長: 大山 節夫 専門学校北海道自動車整備大学校 校長

委員: 勝長 裕二 専門学校北海道自動車整備大学校 副校長

今野 和彦 専門学校北海道自動車整備大学校 一級・二級自動車整備学科
学科長

前田 一也 専門学校北海道自動車整備大学校 一級・二級自動車整備学科
副学科長

千葉 一俊 専門学校総合事務局 学校事務部 部長

(2)評価基準: 文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠している。

(3)評価方法: エビデンスをもとに、自己点検・評価委員会を開催し、学校自己点検・評価を取り纏めている。

4. 評価項目

(1)教育理念・目標

(2)学校運営

(3)教育活動

(4)学修成果

(5)学生支援

(6)教育環境

(7)学生の受け入れ募集

(8)財務

(9)法令等の遵守

(10)社会貢献・地域貢献

(11)国際交流

5. 評価項目に対する評価

(1)4段階で点数評価しました。

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2)それぞれの評価項目のうち評価3以下のものについての状況と課題、対策について報告する。

1 学校の教育目標

校訓 「信頼されるサービスエンジニアをめざし腕を磨き己を鍛えよ」

(以下、「専門学校北海道自動車整備大学校学則」抜粋)

本校は、校訓 「信頼されるサービスエンジニアをめざし腕を磨き己を鍛えよ」に基づき、自動車整備士として最先端技術に対応できる専門知識及び技能の習得に加え、コミュニケーション能力や接客スキルを身につけた職業人の育成を図ることを目的とする。

- ①校訓の具現化と計画的実践
- ②全教育活動を通じた校訓の浸透
- ③教員一人一人の具体的な取り組み
- ④学年、クラスの計画的取り組み
- ⑤業界のニーズに合わせた人づくり

2 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 入学者目標 入学者数 100 名

(一級自動車整備学科 40 名、二級自動車整備学科 60 名) ※留学生 4 名

≪ 具体策 ≫

- ①オープンキャンパス参加者からの出願者確保
- ②ファーストアプローチの強化
- ③留学生の受入れ
- ④女子学生募集の強化
- ⑤募集プロジェクト会議の実施

(2) 退学者減少に向けた取り組み

≪ 具体策 ≫

- ①担任による個人面談の実施
- ②保護者懇談会の実施
- ③情報共有 朝礼前(学年会議)、朝礼時(学生動向報告)
- ④学生部会議の実施(月間目標の設定と反省)

(3) 就職率目標

・就職希望者に対して 100%(卒業生者数に対して 90%以上)

≪ 具体策 ≫

- ①ゼミ授業の活用(就職希望アンケート、企業研究、個別面談、個別面接指導等)
- ②企業訪問の実施
- ③就職セミナー、自動車業界研究セミナーの実施

(4) 資格取得率目標

・一級自動車整備士登録試験(学科)90%以上
・二級自動車整備士登録試験 100%

≪ 具体策 ≫

- ①前年度担当者との情報交換
- ②国家試験対策問題の共同作成(苦手分野の克服)
- ③苦手科目に対する個別指導の実施と指導強化(補習授業の実施)
- ④一級自動車整備士登録試験(学科)合格率の向上に向けた改善対策

(5)活動目標(業務効率向上)

- ・3 ポリシー(AP・CP・DP)に基づく教育課程・教育体制の検証と改善
- ・教育基軸手法を用いた、本校における中心的な教育課題の検証と改善、
ICT教育に係る能力の向上、勉強会の実施
- ・業務の効率化と業務マニュアルの制定
- ・コロナ禍であっても感動的な教育を実践

《具体策》

- ・3 ポリシーを会議等で意見交換をして教育体制の改善をしていく。
- ・教育基軸手法を活用する話し合いの場を設け、ICT教育の能力向上の勉強会を開く。
- ・業務の効率化をはかる為に会議の開催やプロジェクトチームを作る。
- ・ペーパーレス化を進める。

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目		適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(1)-1	学校の理念・目的・育成する人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	4
(1)-2	学校における職業教育の特色は何か	4
(1)-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
(1)-4	学校の理念・目的・育成する人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4
(1)-5	学校の教育目標、育成する人材像は、学校に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(2)-1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
(2)-2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
(2)-3 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
(2)-4 人事、給与に関する規程等は整備されているか	4
(2)-5 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
(2)-6 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
(2)-7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
(2)-8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
特になし

(3) 教育活動

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(3)-1 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
(3)-2 教育理念、育成する人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
(3)-3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
(3)-4 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
(3)-5 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
(3)-6 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
(3)-7 授業評価の実施・評価体制はあるか	4
(3)-8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
(3)-9 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
(3)-10 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
(3)-11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
(3)-12 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4
(3)-13 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
(3)-14 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
特になし

(4) 学修成果

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(4)-1 就職率の向上が図られているか	4
(4)-2 資格取得率の向上が図られているか	3
(4)-3 退学率の低減が図られているか	3
(4)-4 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
(4)-5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

(4)-2

二級自動車整備士試験はガソリン96.4%、ジーゼルは97.6%と目標設定値に近い取得率を達成、また一級自動車整備士試験に関しては87.5%とこちらも全国平均の合格率53.0%を大きく超えているが、目標設定値の達成を目指し、更なる問題傾向の分析、対策が必要。

(4)-3

学生の休退学率が6.69%と、目標の5%を超える結果となった。引続き学生への指導体制の強化や授業等理解不足者へのフォロー等を行う必要がある。

② 今後の改善方策

(4)-2

- (1) 授業担当者との情報交換の継続
- (2) 苦手科目に対する個別指導の実施と指導強化(補講授業等の実施)を継続

(4)-3

- (1) 学生の修学、生活状況を把握し、管理職とともに課題の早期対応を図る。
 - ・担任による個人面談の実施
 - ・保護者懇談会の実施
 - ・朝礼時の学生動向報告及び毎週実施する学年会議により情報共有

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(5)-1 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
(5)-2 学生相談に関する体制は整備されているか	4
(5)-3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
(5)-4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
(5)-5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
(5)-6 学生の生活環境への支援は行われているか	4
(5)-7 保護者と適切に連携しているか	4
(5)-8 卒業生への支援体制はあるか	4
(5)-9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
(5)-10 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項

(6) 教育環境

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(6)-1 施設・設備・図書は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
(6)-2 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
(6)-3 防災に対する体制は整備されているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(7)-1 学生募集活動は、適正に行われているか	3
(7)-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
(7)-3 納付金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

(7)-1

二級自動車整備学科の定員未達について、原因分析が必要である。

② 今後の改善方策

(7)-1

上記分析をもとに募集活動の見直しを図る。

③ 特記事項

(7)-1

担当部署との協力体制・情報共有を密にし、「オープンキャンパス企画や内容の工夫」、「ファーストアプローチ方法の強化・工夫」を図り、全職員による学生募集協力体制で取り組んだが、一級自動車整備学科 40 名、二級自動車整備学科 46 名で、一級自動車整備学科は目標設定値を満たしたが二級自動車整備学科は到達できなかった。

(8)財務

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(8)-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
(8)-2 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
(8)-3 財務について会計監査が適正に行われている	4
(8)-4 財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
特になし

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(9)-1 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
(9)-2 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
(9)-3 自己点検・評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
(9)-4 自己点検・評価結果を公開しているか	4

① 課題
特になし

② 今後の改善方策
特になし

③ 特記事項
特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(10)-1 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
(10)-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
(10)-3 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

年度当初計画していた町内清掃ボランティア活動を3回実施し、地域貢献ができた。その他ボランティア活動の機会があれば積極的に学生参加を奨励する。

(11) 国際交流

評価項目	適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1
(11)-1 留学生の受入れについて戦略を持って行っているか	4
(11)-2 留学生の受入れ、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4
(11)-3 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4
(11)-4 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4

① 課題

特になし

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

総括

本年度は、一部遠隔授業の実施はあったが、基本的には対面形式での授業を行った。資格取得目標については、二級ガソリン自動車整備士合格率 96.4%、二級ジーゼル自動車整備士合格率 97.6%、一級自動車整備士試験合格率 87.5%と、目標には達していないが全国平均を上回る結果を出した。特に一級自動車整備士試験に関しては大変良好な結果といえる。

入学者について、一級自動車整備学科は定員を満了したが、二級自動車整備学科においては、前年比 80%と大幅に減少した。この点については原因分析を行い、回復に努める必要がある。

休退学率について、悪かった昨年度に比べ 6.7%と更に悪化した。昨年度の反省でコロナ禍に対応する授業運営の影響で学生との信頼関係構築ができていないことを原因としていたが、教員間の情報共有、学校全体で学生指導を行うという基本的なことが疎かになっていたといわざるを得ない。朝礼の在り方、管理職のかかわり方などを見直し、学生に関する情報共有を学校全体のものとする改善が必要である。

学生満足度を向上させることが、休退学率の低減、国家資格合格率の向上、入学者の確保にも直結することを再認識し、学校運営と教育活動を改善し実践していくことが重要である。